

## 第10回 縄文楽検定（初級）解答集

問題	解答
1	b
2	c
3	c
4	c
5	b
6	b
7	c
8	b
9	c
10	b
11	c
12	a
13	a
14	a
15	c
16	d
17	c
18	c
19	b
20	b

問題	解答
21	b
22	d
23	c
24	c
25	d
26	d
27	b
28	b
29	c
30	d
31	c
32	a
33	c
34	d
35	c
36	b
37	a
38	c
39	d
40	a

問題	解答
41	b
42	d
43	b
44	b
45	c
46	c
47	b
48	a
49	d
50	a

(解説)

出題に用いたテキスト等とその略号は、以下のとおりです。

- ①『<縄文楽検定テキスト> 縄文文化と火焰土器』(2008) = 「テキストⅠ」
- ②新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』(新潟日報事業社 2009) = 「火焰土器の国」
- ③『<縄文楽検定テキストⅡ> 信濃川火焰街道 縄文の旅』(2011) = 「テキストⅡ」
- ④『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化GUIDE BOOK』(2016) = 「ガイドブック」
- ⑤『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国文化』ストーリー = 「ストーリー」

なお、問題文中、「火炎土器」「火焰土器」「火焰型土器」「火炎土器様式」などの用語が出てきますが、すべて使い分けをしています。

くわしくは、テキストⅠの9頁などをご覧ください。

それでは、主な問題とその回答について簡単に解説します。

問 9 C は半分にわった管状の工具で文様を整えているところです。また多くの火焰型土器には縄文はつけられていません。火焰土器の国 116～129 頁など参照。

問 17 青銅器と稲作は弥生時代から見られます。縄文時代に現在のところ文字は発見されていません。縄文文化は無文字文化だったと考えられています。

問 19 石皿は、木の実などを磨り潰すための台石として使われました。セットとなるのは、その木の実を叩いたり、磨り潰すための石器である磨石です。

問 23 cは長岡市・馬高遺跡「馬高遺跡の住居跡」(テキスト13頁)で、人が立っているところが柱を立てた穴、中央の石で囲んであるところが火をたいた炉です。aは三条市・五百川遺跡「モノ送りの場」(テキストⅡ9頁)、bは長岡市・門の沢遺跡「火焰型土器の出土状況」(テキストⅡ15頁)、dは津南町歴史民俗資料館(テキストⅡ26頁)。

問 37 平成24年から津南町の堂平遺跡から出土した火焰型土器1点が、大英博物館の日本の歴史文化を伝える展示室に常設展示されています。平成28年度からは長岡市の岩野原遺跡から出土した火焰型土器など縄文土器も4点展示されています。

問 44 aは長岡市馬高縄文館、cは津南観光物産館、dは新潟市の昭和大橋に設置されています。ガイドブック31～32頁参照。

問 45 aは新潟市、bは日本遺産、dは新潟市中央区のロゴマークです。

問 50 ガイドブック28頁参照。津南町にある松屋というパン屋で、沖ノ原遺跡の竪穴住居跡の円い形と柱穴をイメージしたチェリーダイヤモンドが販売されています。